

## 第3回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定 木材産業部会 議事録

日時：平成26年9月12日（金）18：00～20：00

場所：日田市役所7階 中会議室

### 次第

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議題
  - (1) 骨子案について
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

## 事務局資料説明省略

### 部会長

骨子案全体を通して、文章の書き方、内容が遠く感じる。製材工場数、生産量、乾燥材のここ30年の変化を記載して欲しい。おそらく、工場数は減っているが処理量は変わっていないと思う。40万m<sup>3</sup>が1つのラインになると思う。乾燥材は30年前はゼロだった。今の山の現状とはかけ離れた現状があると思うので、そのあたりの意見を出して欲しい。解決の方向性で良いと思うのは、林業咸宜園だと思う。今後、日田で非常に重要だ。この中には、山、加工全て含まれる。これを充実させ、木材の町を定着させていくべきだ。

### 部会員

前回の構想であげられた課題の何が解決されて、何が解決されていないのか、どこに記載されているのか。20ページの豆田地区は国の伝建地区に指定されている。江戸、明治、大正、昭和初期の多様性が残されているというのが選定理由だった。「統一感」を求めることになると、その多様性が失われることになる。隈地区は指定されていないが、きちんと歴史に沿ったまちづくりにしなければ、木材では統一されているかもしれないが、どこかで見た町になってしまう。

### 事務局

前回構想の件については、森林・林業部会でも構想に対する検証がなく、今回についても策定後何もしないのかという意見をいただいた。事務局としては、10年間の計画期間中、最低5年で見直すことは記載している。毎年を検証とするかどうかはわからないが、市としては何らか検証の場を設けたいと思っている。前構想の検証については、今回のビジョンに記載するかどうかの最終判断はしていない。事務局としては、前回構想の検証を踏まえた施策体系としたいと考えている。豆田地区の件については、ご意見の通りなので修正したい。

### 部会長

前回ビジョンの課題はほとんど解決されていないのではないかと。前回の検証は生かして欲しい。

### 部会員

日田の課題に対する解決の方向性がそれぞれ出てきている。それぞれの課題解決方法について、達成可能性を数値化してもらいたい。数値化できれば、どのくらい現実性があるのか、あるいは解決には時間がかかるのか、など見えやすくなる。例えば、集約化は非常に難しいので、達成度は低いなど。

部会長

日田で小規模所有者が多いのは昔からの課題である。最初の合同部会でも、この課題はあげられていた。

事務局

部会、委員会で出されて意見を踏まえ、共通課題として森林経営の集約化を重点課題として記載した。しかし、実際には、森林組合が森林経営計画の約9割をたてており、表向きは集約がなされている状況の中で、実際の施業の集約化にはまだまだ課題がある。その、表向きと現実課題をどのように書き込むか、現段階でわからなかったため、具体的な方向性は保留とした。

部会長

森林を所有したくないという人が増えている以上は、その解決策は、森林組合か国が買い取るかの2つしか解決方法がないと考えている。ただし、森林組合が買い取ることは難しいので、国が買い取るべきだ。国土を増やせばよい。そうすれば集約化ができていくのではないか。

事務局（九経調）

個人的には、部会長のご意見の通りだと思うが、市のビジョンとして、国への提言を含めて良いかどうか、判断しかねる。

部会長

書けば良いと思う。国とのキャッチボールは必要だ。他の地域でも同様の課題があるので、日田から発信は必要だ。

部員

同社にも個人から相談がある。どうしようもない山を持っていて何とかしたいというものだ。少しでもお金になる山なら購入を考えるが、採算が合わないため買い取りは難しい。しかし、誰かが買い取らなければ、固定資産税の支払いの負担だけがあるような状況だ。部会長の意見の通り、ぜひ、市から国へ提言して欲しいと思う。

部会員

重点施策では、課題に対する解決方法が記載されているが、日田材を売ることが一番の目的である。解決策として実行したことをどれだけ、日田の外部に有効的に情報発信しているかが大切である。

#### 部会員

建築業界では、新築着工数の減少は明らかである。国産材の住宅を増やしていくかが大切である。建築用材の需要拡大は難しいが、国産材と外材の比率を変えていくことで、国産材の利用率は高まっていく。国家の問題となるが、関税を高くするなど、抜本的な改革が必要ではないか。16 ページの解決策の2点目については、ぜひ「設計事務所」を記載していただきたい。設計事務所が仕様を出すので、国産材の利用普及にあたっては重要な位置を占めている。住宅産業は、コスト安の中で競争している。設計事務所は、そのような価格競争に対抗せず、自らの意志で国産材を積極的に利用しようとする人が多い。日田の教育施設の全てを木質化するべきである。教室の木質化は重要だ。木育にもなるし、学習環境も良くなり、外部へのPRにもなる。担い手育成は重要。日田林工を核とした学校の見直しが必要だ。林と工が一緒になった高校は全国で1つしかない。林工には、建築科もある。国立の高専のように、林業も技術者を育てる教育機関をつくって欲しい。大きな気持ちが必要である。市が福岡にモデル住宅を設置するという話を聞いたが、福岡ではなく日田につくるべきだ。そうすれば住宅の見学だけでなく、山を見てもらい、観光をしてもらうことができる。

#### 事務局

教室の木質化については、具体的な例として記載を検討したい。21 ページの、担い手の確保に記載しているが、林工の高専化については、実現性、記述の方法も含めて再度検討したい。観光プログラムについては、20 ページで、文章整理をして書き加えたいと思う。

#### 部会員

即戦力となる現場に入っていける人材を育てていく必要がる。重機以外もできる人材が山には必要。何のために売るといえば、山に還元し守っていくためである。

#### 部会員

今回の骨子案で出された解決策を実行のあるものにして欲しい。その手順も示して欲しい。そうでないと、前回の構想と同様、作成しただけで、課題は解決されていないことになる。今回の良かった点は、部会で違う立場の人と意見交換できるようになったことで、自分では何ができるかを考えられるようになった。自分がやりたいことは、学校、工芸館をつくる、エネルギーに関することに取り組むなどである。ただし、自分だけではできないので、様々な方の協力を得ながら実現したい。小学生なども含め若い世代に対して、日田が木工の町、ものづくりの町であることを工芸館を通して知ってもらいたい。子供に自分の町を誇りに感じてもらい、将来日田に戻ってきて木に携わる仕事について欲しいと思

っている。課題の解決については、今回の部会のように、具体的に自分たちでできる解決策を議論する場が必要。ビジョン策定後もぜひ、このような場を設けてほしい。

日田杉で発電した電気を利用した充電スタンドを設置したいと思い、各方面に協力を依頼したが、補助金を利用しても手出しが40万円程度必要ということがわかった。個人での負担額としては厳しい。民間でできることは努力するが、それでは不足する部分をどのような形で、あるいは割合で行政が支援するかということを考えていく必要がある。それをきちんとビジョンに盛り込む必要がある。教育という点では、大分の大学などと連携した、スギに関する「日田ソムリエ」という試験制度をつくれないう案もでていいる。スギの知識を全て網羅できるようなもので、日田でその資格を取得するなどだ。

#### 部会長

モデル住宅については、様々な形があると思う。韓国や中国では、マンションなどの内装は自分ですするというものもある。それに向けた内装用の提案モデルもあって良い。また、観光、日田ソムリエと組み合わせた、ツーリズムなどもあって良いのではないか。林業咸宜園を膨らまして、プロの養成所もできる。実際に動くことが必要だ。トライウツドのキヤドンツアーは、実際には採算がとれない事業かもしれないが、ずっと続けている。すごいことだと思う。とにかく継続することが大切だと思う。

#### 部会員

日田スギの家、家具、小鹿田焼、日田にあるもので住宅をつくることは可能。自分がそのような住宅を建てたら、公開しても良い。

#### 部会長

林業咸宜園は、非常に幅の広い取り組みだ。その意味もあって、重点施策の最後に記載されていると思う。構想や土台は市でつくる必要があるが、議員などとも連携を図り具体的に動かしていくことが求められる。20~30人程度の規模で良いと思う。山のプロを育てることが必要。

#### 事務局

林業咸宜園については、そこまで持っていきたいと思うが、現実性については検討が必要だ。一旦、社会人になった人が学び直したい、現場で働いている人が、さらに技術力をあげたいなどという場合に、日田では林工、林業研究センター、現場で働いている方に講師になっていただいて、それらを束ねていくようなものをイメージしている。プログラムは県などの協力を得ながら構築したい。スタートは、日田市内の学校跡地等を利用しながら、短期間のセミナー開催で、それを反復しながら形をつくっていければと思う。

#### 部会員

林工については、林産工学科が一番のメインだったのに、林業科と一緒になくなってしまった。建築と土木も一緒になった。一番の目玉がなくなっているのは、社会の産業需要が落ちているからだ。そうだとすると、林業地として、日田の理想として、きちんと掲げる必要があるのではないか。相当な意識の高さが必要。

#### 部会長

ビジョンでは、現実的な項目をいくつも挙げていく方式が良いのではないかと。今後、退職者の数を考えると、毎年の採用が必要になるが、その年の採用数は確保できても、定着率が低い。日田から人が減らないようにするというのが、林業の課題で、それを解決することで林業を守ることが必要。大きい組織の中よりも、共通課題や意志をもつ人たちが小さく集まった方が、動きやすいのではないかと。しかし、苦しいとはいっても、製材業はまだ食べていけているので、具体的な動きにならないのではないかと。

#### 部会員

19 ページの木育の項目は良いと思う。小国町では、ウッドスタートという事業で、子供が産まれた時に、町でとれた木を使った玩具をあげて、木に親しんでもらうというものだ。産業振興にもつながる。今回の解決策の中で、具体的に取り組んでもらえたら良いと思う。日田の下駄業界は、昭和 30 年頃は 500 社くらい関連業者があったが、現在は 20 社を下回っている。産業として厳しい状況になっている。市役所では日田下駄を室内履で使っていたと聞く。そのように、日田は木材の町というのを PR していくことが重要ではないかと。ツーリズムについて、きやどんツアー、体験ツアーなどがあるが、他の地区でも様々なものがあるので、この担当課だけでなく、商工などとも連携する必要があるだろう。

#### 部会員

ビジョンの中に具体的なアクションプランがないので、皆さん方から、具体案の要望があがっていると思った。

現在、全国の動きとしては、製材工場の大型化原木の直送が主流となっているが、日田は違う。分業化、専門化が進み、小さい工場がきちんと機能して、地域で一つの大型工場のような働きをしている。そのため、今の特色を生かして、製材工場や原木市場がそれぞれの役割を果たし、今ある物をより良く進めていくような方向性を記述していただき、部会でアイデアを出してもらえればと思う。

#### 部会長

現在、製材工場の大型化が進んでおり 20 万 m<sup>3</sup>規模の工場もできている。そのような工場が増えると、丸太の価格は絶対にあがらない。薄利多売の方向に行くべきではない。

#### 部会員

日田を1つの大きな工場と見なすとしたら、様々な立場の人をまとめる役、整理する役が必要になるだろう。それが一番難しいが、できれば日田は変わる。

#### 部会長

日田の現実として、付加価値を高めるのではなく、少しでも安く生産する方向で競争してきた。ブランドは、現在と全く違うレベルでやらないといけない。地域をまとめてブランド化するのは非常に難しい。しかし、今やらなければいけない。

住宅着工数が減るなかで、空き家も増え、リノベーションやリフォーム需要に期待できるのではないか。

#### 部会員

中古住宅に注目が集まっているが、正直なところ、日本の中古住宅はものにならない。基本的な耐震構造も保証されない。中古住宅を現在の耐震基準まで持って行くのは大変である。そのため、新築住宅の材料をいかに国産材にシフトさせるかが重要になる。

#### 部会員

山、製材所、あらゆるところで人材育成は大事だが、人材確保はさらに急務である。人材を確保するためには、きちんとした給与を支払う必要がある。しかし、そこが難しくなっている。人材育成は施設やカリキュラムができれば、一定程度の人材は育つと思うが、その後の雇用維持にも目を向けて欲しい。何か支援があればありがたいと思う。

#### 部会長

一定のレベルまでの人材育成はできるが、優秀な人が欲しければそれなりの給与を支払う必要があるだろう。

#### 部会員

大型工場であれば、機械化されていてオペレーションを覚えれば良いが、中小工場の場合には、新しいものを作る場合、技術者が必要になる。これは、個人的な課題でもある。別府の竹工芸分野では人材育成をやっている。例えば、県の林業研究部でスギを使った木工工芸の技術者を育てるようなことはできないのかと思っている。また、一般に開放されている設備とそうでないものがある。例えば、乾燥機など使わせてもらえればと思う。

#### 部会員

別府の竹工芸については、定員が減っている。2年間育てても、地元の竹細工の会社で雇用がないので、起業するか地元に戻ることになる。日田で、同じようなことをやると、一時的に人口は増えるが、その後の受け皿がある、あるいは起業できることが重要。学校と受け皿の2つが必要だ。また、課題に対する解決策について、役割分担やロードマップをきちんと示す必要があるのではないか。その後は、民間主体の活動になっていく必要がある。

部会長

山から製材、加工に行くべきだ。山は確実に仕事があるので、林業成宜園はまず林業を幹にして、そこに枝葉をつけるという形をつくるべきだ。

部会員

「クラスター化」が基本理念として記載されているが、しかし、これは欲張りすぎだと感じている。せつかくやるなら、集約化、学校、エネルギーなど1つに絞った方が良いのではないか。

事務局

大きな方向性を決め、課題に対する解決の方向性を網羅的に記載していくのがビジョンである。行政の手法にはなるが、皆さんから出されている意見は、本来はビジョンを策定した後の基本計画の部分にあたる。その点をご理解いただきたい。そのため、個別具体的な施策、時間軸、役割分担などは、ビジョンで示すのは難しい。

部会長

ビジョンを活用しながら、下から意見・要望を上げていく必要があるだろう。

事務局

皆様の意見・要望を踏まえ、市の施策としてどう進めるかとなった時、個別施策の方向性がビジョンのどの部分に記載・整理されているかということが必要になる。今後、我々が動く際にも、方向性がビジョンに盛り込まれている方が進めやすい。

部会長

解決策の中には、民間が動くべき内容も多く含まれているが、林業成宜園については市が音頭を取るべきだ。市が直接行うのではなく、県や国、地元を市が巻き込んでいくということだ。

部会員



この部会から、重点的に実施して欲しいことを挙げていくことが重要だろう。今回のような様々な立場の人が集まって話しができる場をきちんと設けることが重要である。若い人が集まって話せる場として、日田林業青年会議所があったが無くなってしまった。そのような場づくりは、行政主導でないと難しい部分がある。地域リーダーの育成は何より重要である。若い人達に期待したい。最後に、事務局は部会で出された意見をきちんとビジョンに盛り込んで欲しい。意見の反映なしに「市民の意見を汲み取ったビジョン」と議会で説明するのだけはやめていただきたい。

事務局

今後は、策定委員会後にもう一度部会を開催したいと考えている。

部会長

部会員から訂正が出せるよう資料は早めに出して欲しい。策定委員会後、部会員も素案を見ることができるので、随時意見を出してもらいたい。

事務局

今回、皆さんの意見を踏まえて上で、白紙の段階からビジョンを積み上げているので、今後も活発な意見をいただき、事務局と部会で齟齬のないように反映させて行きたい。

部会長

ビジョンを作ったあとの具体的な施策についての話し合いの場はないのか。我々としては、ビジョンの先が大切なので、場は設けてほしい。

事務局

ビジョンの具現化については、検証、推進のための議論の場が必要と考えている。

部会長

本日はこれまでとします。ありがとうございました。